

第2部

『利用者の感染リスクの低減と 日常的な対応』

みやこICN

三菱京都病院 嶋 雅範

研修内容

- 第1部

職員のリスクと環境について考える。

- 第2部

利用者へのリスクについて考える。

- 第3部

陽性者が発生したときについて考える。

利用者の健康管理について

4 入所者の日々の健康管理

- ① 入所者の定期的な検温や健康管理の実施
- ② 発熱や呼吸器症状等の症状がある入所者の情報
共有と記録



4-① 定期的な検温や健康管理の実施

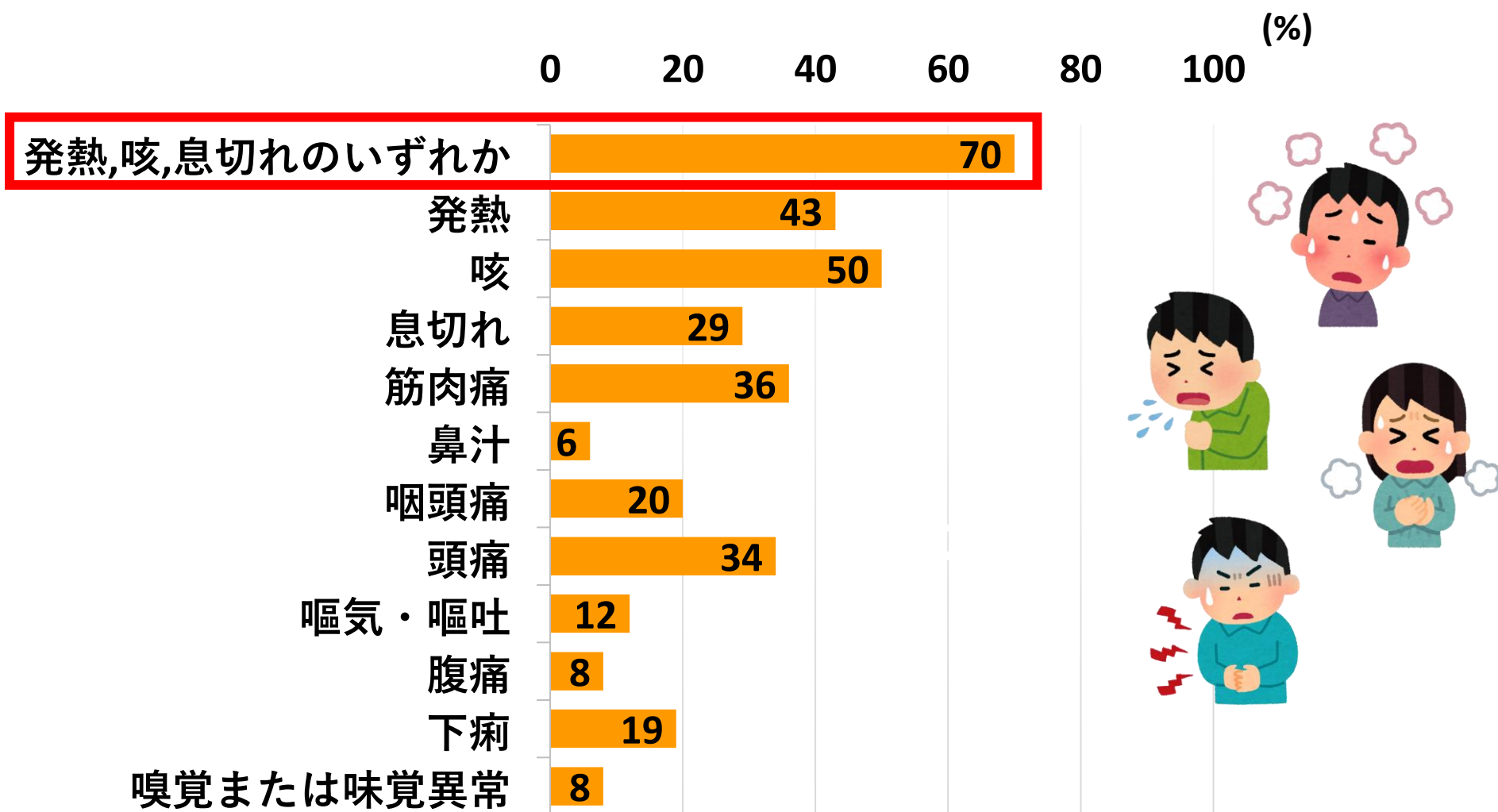
- 定期的な検温や健康管理を実施しているか

体調不良者を早期に発見し、隔離することが重要である。頻度は多いに越したことはないが、継続可能な回数を決定し確実に実施できるようにする。

- 同時に風邪症状等がないかも把握する



新型コロナウイルス感染症の主な症状



4-②発熱や呼吸器症状等の症状がある入所者の情報共有と記録

- 有症状者を記録として残しているか

新型コロナウイルス感染症を発症した場合、発症日が推定できる。

→濃厚接触者の有無が明確にできる。

→記録がない場合疑わしい接触者すべてが濃厚接触者になってしまう可能性あり。



4-②発熱や呼吸器症状等の症状がある入所者の情報共有と記録

- スタッフ間で情報共有するシステムはあるか

体調不良のある利用者が新型コロナウイルス感染症であった場合に濃厚接触者を減らす。

→申し送りが不十分で濃厚接触者となってしまうことを
避ける



4-②発熱や呼吸器症状等の症状がある入所者の情報共有と記録

- 有症状者を隔離する基準はあるか

→どのような症状が見られた場合に隔離や受診
するのか明確な基準を決めておく。

→疑似症の取り扱い（抗原orPCR陰性だが、症状が
ある場合）

PCR陰性だったため、症状があるのに
何も対策をしないでいた結果クラスター
につながったとの報告あり



4-②発熱や呼吸器症状等の症状がある入所者の情報共有と記録

- ・医療機関を受診する基準があるか

24時間以上継続する体調不良は、受診を検討する。



レクレーション・面会における感染対策

レクリエーションの問題点

- 大きな声を上げる（カラオケ・合唱など）
- 物を共有する（ボールゲームなど）
- ソーシャルディスタンスが保てない
- 体を動かすレクリエーションの場合マスクを外してしまいがちになる

レクリエーションが契機となった
クラスターが数多く報告されている。



レクリエーションの効果

- 脳機能や身体機能を活性化させる
頭を使うことで認知症の予防
体を動かさなければ筋力低下を予防
- コミュニケーションの促進
社会生活や他者との交流・つながりを持つことで、
脳を活性化する
- **ADL**（日常生活の動作）と**QOL**（生活の質）を上げる
レクリエーションによりリハビリテーション効果を
期待する
他者とのコミュニケーションを促進し、毎日の生活
の質を向上する

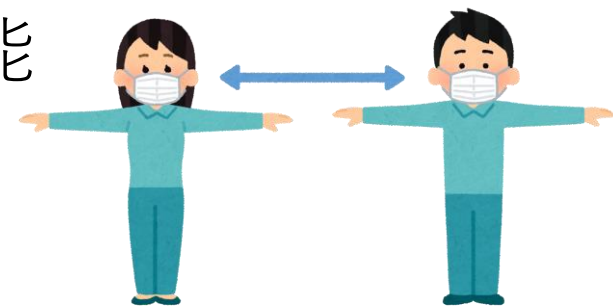
すべてを中止するのではなく感染対策が確実に実施できる
ようなイベントを検討する。

感染対策を考慮したレクリエーションとは

- ソーシャルディスタンスを守る

(マスクができる場合は1m、できなければさらに距離をとるかパーテーションなどを利用する)

- 息が上がるような激し運動や、思わず興奮してしまうようなゲームは避ける
- 共有するものがないワークは可能



面会

レクリエーション同様すべてを中止するのではなく、**感染対策が確実に実施できるような方法を検討する**

- 窓越し面会（声が届かないので何らかの工夫を）
- 十分な距離をとっての面会（ただし十分な距離をとったとしても、何の隔たりもない場合は近づいてしまうことあり）
- オンライン面会などのICT（情報通信技術）を使用した面会



面会

対面による面会者に対する注意点

- 家族などある程度の面会制限を設ける
- 健康チェックの実施
 - 記録に残す（症状だけでなく氏名や連絡先も）
- 対象は面会者だけでなく出入り業者にも実施
 - ボランティア・訪問歯科・訪問美容・訪問販売など

食事・入浴における感染対策

食事

- 席を固定する（固定できない場合、座席の記録を残す）
- 職員と利用者は一緒に食事をしない（やむを得ない場合、距離を保つ、食事の時間帯をずらすなどの工夫が必要）

⚠ 職員と一緒に食事を摂った利用者の陽性事例も
多く見られた

- アクリル板を壊してしまう可能性がある場合はビニール袋をかぶせるようなタイプを検討



食事

従来型

- 必ず席を固定する
- 部屋ごとに席をまとめる
- 1階と2階など通常一緒に生活をしていない利用者が一緒の場所で食事をする場合は、食事の時間を分ける



食事介助および口腔ケア

- 利用者の正面から介助しない
- 複数人を同時に介助しない
(やむを得ず同時に行う場合は、利用者が変わるたびに手指のアルコール消毒を行う)

推奨される個人防護具

- 介助者のマスク、目の防護は必須
- 手袋は手指衛生で代用可能
- プラスチックエプロン・ガウンは、汚染した場合や体幹が利用者に密着した場合に交換する
- 布エプロンは「ユニフォーム」としての取り扱い。感染対策には使用できない



入浴

推奨される個人防護具

- 介助者のマスク、目の防護は必須

※フェイスシールドは外傷の危険がある。ゴーグルや眼鏡を推奨。

市販の曇り止めを活用して視野を確保し、安全管理を行う。

- プラスチックエプロン・ガウンは体を密着して
介助する必要がある場合に使用する
- 手袋は手指衛生で代用可能。

排泄物など湿性生体物質を
取り扱う時に使用



入浴

その他の注意点

- 利用者同士の接触はないようにする
- 複数人ずつ入るのであれば、通常一緒に生活をしていない利用者と一緒に入るのは避け、入浴する時間を分ける
- お風呂場に入るときにある暖簾は感染の温床になる可能性あり（パーテーションで代用を）
- 入浴していない時の浴室はよく乾燥するよう工夫する



排泄介助における感染対策

排泄介助

- 基本のPPE
- 患者ごとに交換
- PPE交換時には手指消毒を施行



さいごに

- 日常的に感染対策を行うことで、クラスターを回避することは可能です
- まずは現状を把握しガイドラインに近づけることのできるところから取り組んでください